

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達相談支援センターココベリ 放課後等デイサービス		公表日		年 月 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容や児童の特性・利用人数により活動場所を分けている。 引き続き、個室や別室(食堂・スヌーズレン室・児童発達支援指導訓練室・講座室)を活用し、スペース確保・安全確保に努めていく。	基準を満たしているが 子ども達の成長や利用人数に伴い、活動スペースが狭く感じる点がある 。児童発達支援指導訓練室を使用するなど活動部屋を分けているが、 時間帯によっては、児童発達支援の活動時間と重なる点がある為、その際のスペース確保が課題となる 。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	感染症発症時、法人内事業所と連携した応援体制を整備している。職員の急な欠員が生じた場合も速やかに調整を行い、支援の継続および安全確保に努めている。	配置基準を満たしているが、 利用人数増加時やトラブル時などは職員数が足りないと感じる 。また 活動場所を分けることで職員が分かれてしまう為、職員間連携も課題となる 。子ども達の安全を確保しつつ、職員配置を工夫していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	トイレはバリアフリー化されていないが、手すりをつけている(トイレ：二か所あるうちの 一か所のみ)。	トイレの位置など支援・見守りが行いやすい動線とはなっていない。 またバリアフリー化はできておらず、構造化に関しても改善すべき点が多々ある。定期的に設備の点検を行い、快適に過ごせるよう環境上の配慮を検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃・消毒を行い、清潔な空間になるよう心がけている。活動により、指導訓練室(ブレイルーム)や園庭・食堂・個室等を使い分けている。	子ども達の不穏時やトラブル時、他児童含めた安全確保に向けた職員間の動き方などを細かく決めておく必要がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		気持ちの切り替えや個別に対応する場合など、必要に応じて個室を使用することができる。	個別対応時など、全体を通して子ども達の安全性を確保できるよう、職員配置を工夫していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		昼礼・ミーティングで支援の振り返りを行い、目標設定や情報共有に努めている。	全職員がPDCAサイクルを意識できるような仕組みを整え、業務改善に努めていきたい。また職員個人としても自己目標設定・振り返りを意識して業務にあたっていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		今後も保護者アンケートにご協力頂くなど、より良い支援・事業所運営に繋げていきたい。	保護者の方の意向等を把握する機会を設けられていない。まずは評価表の結果を職員で確認し、内容に応じた業務改善を実施していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		昼礼やミーティング時など意見等を把握する機会を設け、適宜改善につなげている。	ささいなことでも共有し職員間で活発に意見を出し合っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	専門職の外部講師を招き助言を頂く機会があり、支援内容に反映している。	第三者委員会は未設置。 必要に応じて第三者委員会の設置を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間計画を立て、オンライン研修や業務に必要な研修を受講している。	職員の資質の向上を図るため、法人および事業所内において勉強会の機会を増やす必要がある。 研修参加者による事業所内での情報共有やココベリ内での勉強会などを検討していく。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて掲載している。	-	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		共通アセスメントツールがあり、職員間で確認しながらアセスメントをおこなっている。	-	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		-	-	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画案の時点でも共有・確認している。また定期的なモニタリングやミーティング時に計画内容を確認する機会を設けている。	計画は共有されているが、職員の把握状況により計画に沿った支援にバラつきがみられる。計画内容を確認する機会を設けながら、支援内容を確認し統一化を図っていく。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
発達相談支援センターココベリ 放課後等デイサービス		年 月 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	15	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。 また担当者会議等での情報共有や複数の職員で定期的なアセスメントを行い、こども達の状況把握・共有に努めている。	こども達の特性により標準化されたアセスメントツールでは状況把握が難しいこともあり、ツールについては都度改善を図っている。 事業所内での様子からアセスメントを行っているが、ご家庭での様子も伺い状況・意向把握に努めたい。
	16	○		本人支援・家族支援・移行支援を柱に個別支援計画を作成している。	「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の具体的な支援内容の設定が課題となっている。
	17		○	以下の活動を振り分け、重複しないよう工夫している。 日生訓練・感触活動・音楽活動・室内活動・外遊び・戸外活動・クッキング・リサイクル活動等	活動担当者が立案、戸外活動は担当職員を決めて立案している。
	18	○			引き続き季節行事や長期休暇時など様々な体験ができるよう、計画していく。
	19	○		計画時に記載されていなくても活動自体は個別や集団活動を適宜組み合わせで行っている。休日・長期休暇時は発達段階により、グループ別の小集団活動を増やしている。	個人に焦点をあてて作成していることや児童の特性により、計画時時点では個別活動が主になる場合もある。状況に応じて個別・集団を組み合わせで作成・支援を行えるよう努めていく。
	20	○		昼礼を行い、支援内容・役割分担について確認している。	長期休暇時は終日、職員が支援・送迎にあたるため、現状打ち合わせや記録をとる時間の確保が難しい。支援内容の打ち合わせ・振り返り・記録時間確保するための仕組みが課題となっている。
	21	○		送迎後は就業時間内の振り返りが難しいことが多いが、出来る限り情報共有に努めている。支援終了後の振り返りが難しい場合は、翌日に振り返りと情報共有を行っている。	また、振り返りを行った後の支援統一化・統一化された支援の継続も課題となっている。
	22	○		記録漏れが無いが定期的にチェックしている。	
	23	○		モニタリングはなるべく複数職員で行っている。様々な視点からの意見を集約し、見直しや継続の必要性を判断している。	-
	24	○			組み合わせているが、定期的にガイドラインの内容を確認・把握し、より良い支援に繋げたい。
25	○		おやつを選択制にしている。	自己選択の提供方法については、引き続き検討していく。	
関係機関	26	○		都度ふさわしい担当者を選出し参画している。	-
	27	○			必要に応じて連携が必要だが体制整備は課題となっている。
	28	○		学校お迎え時、学校職員と情報共有を行っている。また必要時は学校と連絡調整を行っている。	-
	29	○		必要に応じ、就学前に利用されていた施設へ情報共有を行い相互理解に努めている。また法人内の児童発達支援事業所を卒業した児童についても情報共有し相互理解に努めている。	-

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		発達相談支援センターココベリ 放課後等デイサービス				公表日	年 月 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて支援内容の情報を提供している。	-	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	専門職の外部講師を招き、助言を頂く機会がある。	必要に応じて各専門機関と連携し助言や研修の機会を設けていく。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	-	今年度は地域のこども達と活動を行う機会を設けられていない。	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域の社会福祉協議会に参加し、研修(オンライン含む)を受講している。	-	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		普段の連絡帳や送迎時のやりとりに加え、担当者会議等でこどもの発達状況や課題について情報共有を行っている。	現在、定期的な事業所内相談の実施が行えていない。事業所内相談の機会を設け、共通理解に努めたい。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	-	実施出来ていない。ペアレントトレーニング等、知識を習得できるよう研修の機会を設けていきたい。	
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		説明や内容が伝わりづらい際はラインやメモで補足するなど、丁寧な説明を心掛けている。	不明点があればお気軽にご質問頂けるよう、また迅速にお答えできるよう職員への周知も検討していく。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		-	-	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書作成後、説明し同意をいただいている。	-	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	相談等、話して頂きやすい対応に努めている。	保護者会や事業所内相談の機会を設け、情報共有や共通理解に努めたい。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	-	-	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		発生時は職員間で迅速な情報共有に努めている。また相談・苦情解決委員会を設置し、こどもや保護者に適切に対応できるよう体制を整備している。	-	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		お便りにて活動概要や行事予定を発信している。体験行事については別途文書で連絡帳と一緒にお知らせする場合もある。	SNS(インスタグラム等)での発信が乏しいため、定期的にお伝えできるよう改善していく。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		必要に応じて鍵付きロッカーへの保管を行っている。	個人情報の取り扱いについては引き続き職員間でセキュリティ意識をもち、業務を行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡帳でのやりとりで不足する場合は、口頭(電話)や文書・ラインなどでお知らせしている。	-	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ココベリマルシェを開催し、保護者や地域住民の皆様にもお越しいただいている。	-		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
発達相談支援センターココベリ 放課後等デイサービス		年 月 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成し職員に周知している。	保護者が来所した際に、要望があれば確認していただけることをお便りなどで周知していく。保護者への周知方法については今後の課題とする。 また所属する委員会以外マニュアル内容把握にも努めていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練を実施し、お便りでお知らせしている。	発生時にスムーズに対応できるよう今後も定期的に行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・保護者から頂いた情報に基づき、職員間・関連事業所で情報共有している。	-
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、食物アレルギー該当児童無し。 動物アレルギーや花粉症等については保護者から頂いた情報に基づき、職員間で情報共有しできる限り対応を行っている。	在籍した場合は、医師の指示書または保護者からの情報に基づき対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、ホームページに掲載している。	特性に応じてグループに分けたり、活動によってそれぞれ活動場所を分けると、職員も分散されるため、支援中の安全管理が課題となる。他事業所職員など第三者視点からの指摘も含め、安全管理に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		-	安全計画に基づく取組内容について、保護者への周知方法については今後の課題とする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し情報共有を行っている。 委員会で各事業所のヒヤリハットを持ち寄り、情報共有に努めている。	ヒヤリハットの情報共有は迅速に行っているが、事例によっては再発防止策まで含めた報告書作成に時間がかかかってしまう。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待身体拘束防止委員会を設置。 年度ごとに研修機会を設け虐待防止意識を高めている。	今後も虐待や身体拘束について、引き続き職員が学びを深めていく機会を設ける。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	現在、該当児童無し。 対象児童が在籍した場合は、あらゆる場面を想定し保護者に事前に十分に説明しご了承いただいた上で対応していく。		